

Yumeken

春

2013 Vol.643

◆特集〇話題の焦点

高松丸亀町商店街に学ぶまちなか再生の極意

◆夢インタビュー

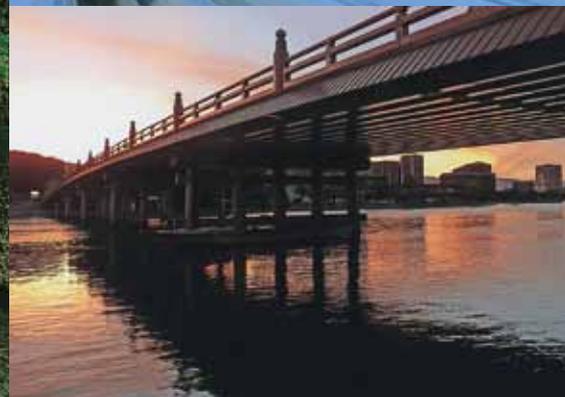
滋賀県建設界野球連盟

◆行ってみよう

ひこねスカイアドベンチャー

◆おじゃまします

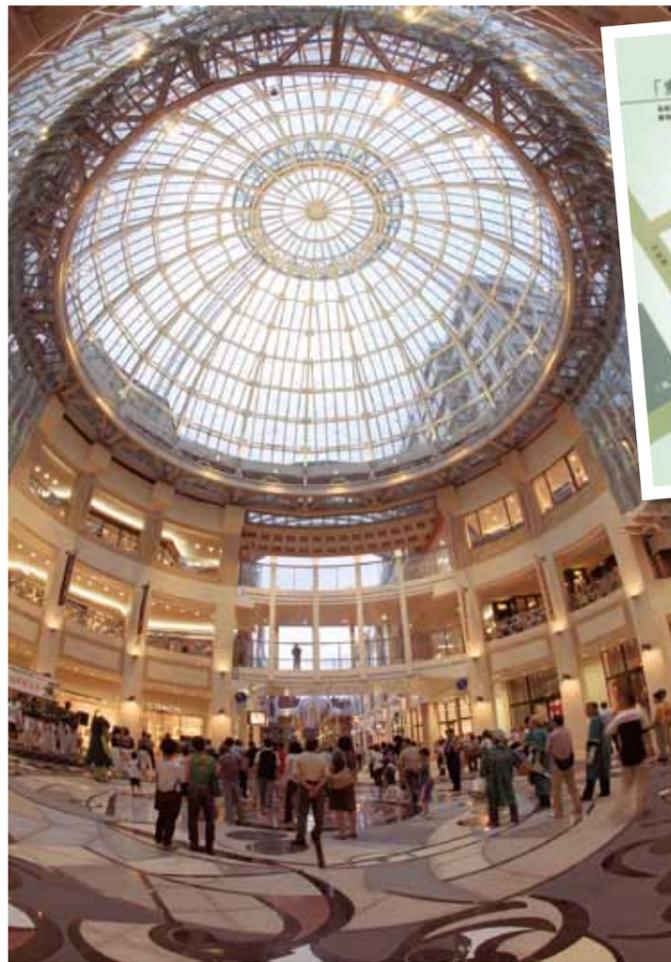
双葉建設株式会社



高松丸亀町商店街に学ぶ まちなか再生の極意

高松市の中心にある丸亀町商店街は、全国で初めての地元主導型のまちなか再開発事業として注目を集め、年間約1万3,000人もの見学者が視察に訪れています。

滋賀県建設業協会の辻野宜昭会長と広報委員会のメンバーが現地を視察して、高松丸亀町商店街振興組合の古川康造理事長からお話をうかがい、地域の建設業としてこれからの滋賀のまちづくりに何ができるかを考えました。



再開発の経緯、商店街の衰退を招いたもの

1958年に開町された丸亀町は、400年以上の歴史を有し、商都高松の中心部として栄えてきました。高松市の中心部には県庁、市役所、病院のほか、丸亀町商店街を含む、総延長2.7kmの8つの商店街が配置され、集積度の高いコンパクトシティが成立されていました。

かつて「商圏は四国4県の人口に相当する400万」と言われた同商店街も、最盛期の1972年をピークに通行量が減り、瀬戸大橋の開通で郊外に大型店が出店すると、ますます通行量が減少して売上の落ち込みが歯止めをかけることができなくなりました。

衰退の要因としては以下のようなことが考えられます。

これを解決するには、消費者目線の選定基準で適切なテナントミックス(業種の再編成)を行うことが必要で、丸亀町商店街は再開発で街の再生を図ることを決意しました。

そこで大きな課題となったのが土地問題で、土地の所有と利用を分離して、振興組合が自由に土地を利用できるようにすることが再開発の要になりました。視察の冒頭で古川理事長が「丸亀町再生の核心は土地問題の解決」と指摘されたように、まちづくりを推進するうえで、土地問題の解決は全国共通の課題であると言えます。

地方自治体の財政を維持するために

全国展開する大型店は本社決算になるため税金が県外に流出して、消費者の見えないところで地方の実態経済の破綻が進んでいます。バブル崩壊後、中心部の地価が大幅に下落し



湖国 街かどウォッチング

新しく便利になった街や施設をレポートするコーナーです。

社会福祉法人 信楽福祉会

特別養護老人ホーム「樹の郷」(甲賀市)



甲賀市水口町山3309
☎0748-63-2900
<http://www.shigaraki-itsuki.com/index.html>

昨年開設された特別養護老人ホーム「樹の郷」。地元甲賀産のスキヤヒノキを使った全国的にめずらしい本格的な木造建築で、特別養護老人ホームとしては国内最大級。窓を大きくとったユニークな建物が水口丘陵の豊かな緑に映えています。

森林整備の加速化および間伐材等の森林資源を活用した林業、木材産業等の地域産業の再生を図ることを目的とした、平成22年の滋賀県森林整備加速化・林業

再生基金事業として整備されました。管理棟は大断面集成材フレーム工法、入所者が暮らすユニット棟は在来木造工法で、構造材には1時間燃えても崩れない厚さ130mmの木製梁などが用いられています。

全室個室で、10人ごとのグループに分けてそれぞれを1つの生活単位とし、少人数の家庭的な雰囲気の中で入所者が生活するユニットケアという方法が採用されています。他に短期間、要介護のお年寄りが入所するショートステイのための個室20室と、デイサービスのためのスペースも併設されています。

構造材だけでなく、内装にもふんだんに無垢材が用いられていて、自然光をできるだけ取り入れるよう配慮された館内には、木の香りとぬくもりに心安らぐ空間が広がっています。

柔らかな無垢材のフローリングは衝撃を吸収して、入所者だけでなくスタッフの足腰にかかる負担も軽減してくれま



CONTENTS

湖国街かどウォッチング……………	2
特別養護老人ホーム「樹の郷」……………	3
特集・話題の焦点……………	3
高松丸亀町商店街に学ぶまちなか再生の極意……………	3
夢インタビュー……………	6
滋賀県建設界野球連盟……………	6
ビジネス最前線……………	7
株式会社ガーデン……………	7
特集……………	8
次世代型路面電車について考える……………	8
ここが知りたいものづくり……………	10
コンクリートのおはなし……………	10
行ってみよう……………	12
ひこねスカイアドベンチャー……………	12
おしゃべりします……………	14
双葉建設株式会社……………	14
元氣いただきます……………	16
「第3回建築甲子園」準優勝を獲得……………	16
「仕事の達人・遊びの達人」……………	17
原田 次雄……………	17
バスル……………	17
近江うまいもの紀行……………	18
夢けんひろば……………	18
読者の声……………	19
編集後記……………	19
表紙写真……………	19
「吊り橋塗装中」木村 宏……………	19
「古の遺産」木下 正治……………	19
「大空の下」石森 文夫……………	19
夕照の「瀬田の唐橋」山田 まさえ……………	19
「水音」小島 守……………	19
「春のかわらみ」西田 叔弘……………	19
「伝統の技」平石 宏行……………	19



市民主催のイベントが年間200回以上開催されるドーム広場

たことから、高松市の固定資産税はピークの3割まで落ち込みました。そこで香川県は市街化調整区域を全廃して、郊外の農地を住宅地に変えて税収を補つことになり、まちがどんどん郊外へ拡大していきました。

ところが、急速な高齢化と人口減少が進むと、広がり過ぎたまちを支える行政コストが賄えなくなつていきます。今後、人口の減少に対応するためには、公共投資、民間投資ともすでに終わつていて、新たなインフラ整備がそれほど必要でない中心部に投資して活性化し、郊外に拡散した人をもう一度集積して、まちをコンパクトに縮めなければ自治体は財政を維持できなくなることは目に見えています。

つまり、中心市街地の活性化は商店街の再生のためだけでなく、これからの自治体の財政を維持するためにも、取り組んでいかなければならない課題です。

全国の失敗例から見えたこと

丸亀町商店街では、昭和63年の瀬戸大橋の開

ため、地権者全員の顔が見えたことも、スムーズな合意形成につながっています。

まちづくりの特徴

丸亀町商店街が目指すのは、生活に必要なものが徒歩圏にすべてそろつていて、歩いてすべて用が足せる、車に依存しない街。「年をとったら丸亀に住みたい」と思えるような街です。

街中居住を促進するため分譲マンションや高齢者向けの賃貸マンションを整備するほか、地域医療再生にも取り組み、「美術館北通り診療所」を開設、入院しなくても診療所の上にあるマンションの居室で、訪問診療や訪問看護などを利用しながら療養できるような体制づくりを目指しています。

人々が街に集まりにぎわいを創出する仕掛けづくりにも取り組み、建物を大きくセットバック（元あった場所より1.5m引込んで）して、通路を広く取ったほか、市民が自由に使える広場を設けて、市民の主権によるイベントが年間200回以上開催されています。

高齢者の足を確保するために独自にまちバスを運行したり、自転車による通行禁止を徹底するために、駐輪場や地下を利用した全自動自転車駐輪場を設置・運営しています。これらの経費はすべて持ち出しになりますが、合計約1,000台の駐車場経営の収益で賄われています。

真にまちづくりを阻害したもの

地権者との合意形成が難航したのではないかと思われますが、意外に調整はスムーズでこれに費やしたのは4年くらい、最も苦労されたのは県や市との法律や条例の解釈との闘いでした。その実例の一つが道路の両側のビルをつなぐブリッジの建設です。ビル間の回遊性を保ち、

通を機に大型店の進出が進むと、ますます地方経済が落ち込むことを予想して、同年に再開発計画に着手しました。商店街青年部の有志メンバーは、まず、日本全国の再開発の失敗例を研究することから始めて、そこには次のような一定の法則があることを見いだしました。

行政主導の再開発の手法は、まず地上げをして、デベロッパーの力を借りて新しいビルを建設し、核となる大型店などのテナントを誘致するというものですが、業績不振でテナントが撤退すると、一等地にまた新しい空きビルができることになりません。

丸亀町開発のポイント

丸亀町商店街再開発事業には、以下の3つのポイントがあります。

●定期借地権方式で土地の所有権と利用権を分けることで、権利が複雑に絡む中心部の土地問題の解決を図る。

●身の丈に合った小規模連鎖型事業で街並みの再生を図る。

●商店街全体をまちづくり会社が一括運営し、必要な店を必要な時期に必要な場所に配置できるシステムを構築する。

平成18年12月に再開発事業の第1号となるA街区再開発ビルが竣工しました。1〜3階が商業フロア、4階はレストランと「コミュニティ施設」5〜9階が住居になっています。A街区のコンセプトはセレクトショップストリートで、有名ブランドショップや地元店舗のほか、イベントスペース

エレベーターやエスカレーターの数を減らしてコストダウンを図るために、ビルの2階と3階をブリッジでつなぐことを計画しましたが、高松市が管理する道路の上に民間が橋を建設することは、現在の建築基準法では許可されませんでした。

再開発特区の申請や国の建築基準審査会への動きかけなど、正攻法で「コソコソと調整を進め、3年かかつてようやく市役所からブリッジを建てる許可が得られました。

都市計画法、再開発法、建築基準法、道路基準法、道路交通法、証券法、出資法など、さまざまな法律が新しいまちづくりを阻害する要因になったのですが、「法律や制度の改正も含めて、時代の変化に合うように変えていけるのも民間の活力ではないか」と古川理事長は提言します。

丸亀町これからのまちづくり

現在、再開発計画で予定されている7街区のうち、4街区が完成していますが、今後、生鮮市場や温泉施設、保育園、高齢者福祉施設、高齢者向け賃貸住宅、まちなか防災拠点などを整備していく予定です。



在宅医療や予防医療にも積極的に取り組む美術館北通り診療所

ジとなるドーム広場が設けられています。

その後、飲食店中心のB街区と美と健康をテーマにしたC街区は平成22年に、大型マンションとホテル、広場などからなるG街区は平成24年に完成しています。

A街区の事業費はおよそ69億円ですが、組合員のリスクをできるだけ軽減するために、第一種市街地再開発事業に関する国土交通省の補助金約28億円のほか、中小企業支援関連の補助金や高度化資金（無利子融資）などが活用されています。かなりの公費が投入されても、街の活性化によって固定資産税などの税収が増えれば、投資効果の高い事業になるわけです。

成功の要因

住民主導のまちづくり

大きな成功要因は、定借方式を採用することにより、地権者の合意がスムーズに得られるようになったことにあります。地権者の多くはバブル期に借り入れた返済できない債務を抱えて、業種転換も廃業もできないという状況にありました。

そこで定期借地契約を結ぶ際に渡された補償費を銀行への返済に当て、その後60年に渡って地代が配当されるようにして、廃業を希望する商店主の「廃業支援」ができたことも合意形成をスムーズにしました。

テナントの家賃収入から必要経費を差し引いた金額が地代として支払われる「オーナー変動地代家賃制」になっているため、地権者はテナントの売上、街の興隆に無関心ではいられなくなります。

また、土地取得のための費用が軽減できたことで、再開発事業全体のコスト削減につながり、テナント賃料やマンションの販売価格を抑えて、テナントや入居者の募集も容易になりました。土地の所有権と利用権を分離したことで、適

計画に基づいた「都市の再生」、そして少子高齢化を見据えたまちづくりです。

100年先の子孫のために、たくさんの人々が安心して暮らし、にぎわいの絶えない街を復活し、継続していくためには、地域に対して責任を負う「本気」の覚悟が必要になります。

古川理事長は「本気で子や孫に自分たちの地域を残そうとするか、その覚悟があるかどうかひとつの大きな要因である」と指摘します。そして地域の「コミュニティ」を大切にして取り組むことが、地元主導型まちづくりの鉄則であることと改めて強調されました。

高松丸亀町商店街振興組合の概要

- 組合員数（出資者）104名
- 店舗数 157店
- 総予算約4億5千万円賦課金比率約10%
- 業種構成
 - ファッション関係（52%）インテリア関係（15%）日用品（12%）
 - 食品飲食関係（7%）金融関係（4%）その他（10%）
- 活動原資の自主的確保
 - 1970年代に今日の様相を予測し駐車場の整備を始めて、駐車場経営を成功させ組合としての財政基盤を作った。この財政基盤をもとに再開発に着手した。
- 振興組合／まちづくり会社スタッフ16名

視察を終えて

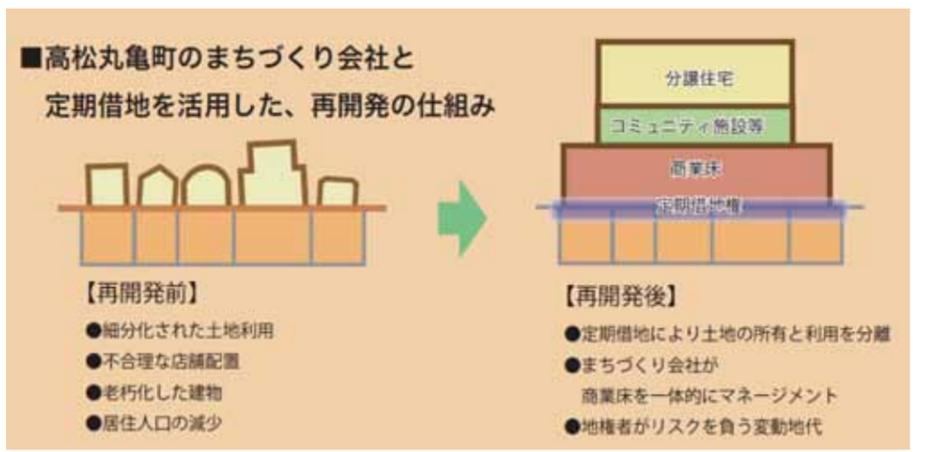


滋賀県建設業協会会長 辻野宣昭

地元の建設産業が知恵袋となって、地域の人々が喜ぶようなまちづくりを仕掛けていければ、滋賀県内でも丸亀町商店街の成功事例に続くまちづくりが可能になるはずです。

住民主導のまちづくりを実現するには、開発・設計や不動産、建設業、機械設備や電気設備、店舗デザインなど、さまざまな分野のプロがそれぞれ立場で知恵を出して具現化していかなければなりません。「ストップフォーマン」の高い快適なまちづくりを実現するには、土地柄をよく知っている地元の建設産業界全体のアドバイザーとサポートが必要だ。

地域の「にぎわい」こそが建設産業の発展につながることを再認識し、我々のほつから情熱を持って先頭を走ってくれる地域のキーマンに働きかけて、協働でまちづくりの絵を描くことができれば、地域の「一歩」にかかった公共事業ができるはずです。そうならば行政も支援してくれる補助金などのお金も付いてくる、いわば民間の発想で民間が発信する公共事業ができるようになります。



生産者と顔の見える関係を築き 近江野菜レストランを展開



株式会社ガーデン
守山市木浜町1866番地
Tel. 077-585-4899
http://www.gden.jp/

自ら農家をまわり、新鮮な旬の野菜を配達する清水社長



大ヒットした花様オリジナルドレッシング



花様ka-you南船場店の店内

滋賀県の農家から直送される近江野菜を使ったメニューが楽しめるレストランを、大阪市内で6店舗経営する株式会社ガーデン。社長の清水裕之さんは湖南市の出身で、大学卒業後、大手流通企業を経て大阪市内の飲食店へ。その後、不採算店の再建プロデュースを手がけて、いくつもの不採算店を黒字転換した後、全店舗の経営権を取得して、滋賀県産つくし自然和食「花様kayou」の経営に乗り出します。

近江野菜にこだわることになったのは、「自然災害の影響で野菜が高騰し、仕入れに苦慮していたところ、守山市で農園を営む親族のお母さんが、そんなに困ってるなら野菜を送ってあげようよ、安価で野菜を分けてもらったことがきっかけになった」と言う清水社長。

お客さんから「野菜がおいしい」という声が聞かれるようになり、清水社長自身も小さい頃から当たり前で食べていた滋賀の野菜を改めて食べてみてそのおいしさを実感、「これを

お客様に味わってほしい」と、農家直送の「近江野菜」を全面に打ち出したメニューへの転換を図りました。

それからは仕事の合間をぬって、軽トラで滋賀県中の農家や農産物直売所をまわって食材探しを始め、野菜だけでなく、キノコや湖魚、豆腐、醤油、味噌、卵など、滋賀のいいものを発掘しながら、生産者との信頼関係を築いてきました。滋賀県産の食材が増えるにつれて、輸送コストがかさむようになったため、トラックを購入して自ら滋賀県から大阪の店舗まで食材を配達するようになり



近江野菜と近江の食材が主役の料理

発にも取り組み、守山市の醤油醸造所の協力で製造販売しているオリジナルの「花様ドレッシング」は、滋賀と大阪で毎月3000本以上売れる大ヒット商品になりました。

「たくさんの生産者さんと知り合って、裏表のない付き合いができるようになったことが掛け替えのない財産。ずっと都会にいて、ただ発注するだけでは

信頼関係を築いてきました。滋賀県産の食材が増えるにつれて、輸送コストがかさむようになったため、トラックを購入して自ら滋賀県から大阪の店舗まで食材を配達するようになり

月間100種ほどの県内産野菜のみを使っているため、在庫と畑の状況を見ながらメニューを決め、毎週メニューを更新して収穫が終わった野菜の料理をメニューからはずしていきます。

カボチャのジャム、かぶらのドレッシングなど、県内農家とコラボした農産物加工品の開

からなかった食の仕組みが見えるようになり、一旦県外に出たことで滋賀の魅力をより強く感じるようになった」と言う清水社長は、「生産者のみならずもちろん、ビジネスに関わるすべての人に利があるオールウィンの仕組みを作らないと継続できない」という三方よしの商いをモットーにしています。

今後、守山市内に農産物加工の集荷施設を建設する予定で、農家の6次産業化の拠点として滋賀県産のオリジナル商品を製造するほか、廃棄される規格外の野菜や果物を使った加工品の開発・生産も手がけていく予定です。

【6次産業】
第1次産業で生産された農作物などを加工して、販売までを一元的に実施すること。加工する第2次産業、販売する第3次産業の1と2と3を足し、もしくは掛けて6次産業と呼ばれる。

夢 Interview

野球を通じた活動で 未来に夢を描ける建設業を目指して

滋賀県建設界野球連盟

今年、50回記念大会を迎える滋賀県建設界野球連盟会長・辻野宜昭、理事長 山本勝義、監事の藤田治さん、常務理事の日和田健二さん、50周年記念事業委員長の森川和彦さんに、これまでの活動を振り返り、50周年の記念大会にかける思いなど、お話をうかがいました。



監事の藤田治さん



常務理事の日和田健二さん(左)と50周年記念事業委員長の森川和彦さん

●建設界野球連盟が生まれたきっかけは、昭和34年に開催された第1回京滋建築技術者親善野球大会には、京都から4チーム、滋賀からは県庁と大津市役所の2チームが出場しました。第2回以降参加チームが増えたので、39年から京滋を分け、名称が「滋賀県建設界野球大会」に変わりました。建築だけでなく、土木も板金も量もということでも「建設界」としたんです。

●50年間活動を続けていられる間にさまざまな苦労があったと思います。

昭和48年に連盟を設立してから、年々参加チームが増えていき、最も多い昭和51年には68チームを数えました。その頃はグラウンドを確保するのに本当に苦労しましたが、あの皇子山球場で試合ができるということ、選手みなさんのモチベーションは大いにあがりました。球場のほうもそうだったことを良くご理解くださって、たいへん協力的に対応していただきました。

●連盟で活動されてきてよかったと思われることは、

野球を通じて素晴らしい交流があり、掛けがえのない「絆」を結ぶことができたと思います。下請、元請ひくくるめて、また普段交流のない地域の人たちと、野球を通じて顔見知りになり「オイ」「オマエ」の仲になったことで、仕事がスムーズにいくこともあったかもしれません。

役員としてボランティアで一生懸命やってき

たのも、ここに来るとどこか心が安らぐ、温かい雰囲気があったからだと思います。

●節目となる50回記念大会を迎えるにあたって、記念事業も計画されているそうですね。

50周年記念事業のコンセプトは「感謝」です。諸先輩方はもちろん、今までお世話になったいろいろな方へ、50年を迎えられたことへの感謝の気持ちを伝えたいと思っています。

具体的なことは決まっています。現在活躍されている選手・そのご家族はもちろんかつて活躍された選手のご家族、お子さん達にもあらためて喜んでいただけるような事もしたいなと思っています。また、式典には今までお世話になった方々に、なるべく多く来ていただきたいと考えています。

●昨今の社会情勢では、大会への参加が難しい企業も増えているのではないのでしょうか。

大会に出場できるチームがだんだん減ってきています。出場してもらいやすいような仕組みづくりなども含めて、どうすれば出場チームを増やせるかという課題に、今は直面しています。

それでも各チームにいる多くの人達が、がんばってチームを引っ張って、練習時間をやりくりしてこの大会に参加して盛りあげています。先達の思いが伝わっているからだと思います。

●50年を機に新しい展開などはありますか、

建設業に夢を持ってないと言われるようになって

り、若い人たちが私たちの業界になかなか入ってきてくれなくなりました。子どもや若者が建設業の未来に夢を描くための活動が、建設業に魅力を感じてもらうための活動が、野球を通じて何かできればと考えています。

●最後に、さらなる50年に向けての抱負をお聞かせください。

私たちは、熱い思いで連盟を創設された諸先輩のみなさんに引っ張られ、その方たちが懸命にがんばる姿を見ながらやってこられたんだと思います。私たちには次の世代を育てる使命があります。きちんとこの活動を次の世代に継続していきたいと思っています。

●ありがとうございます。皆様の今後の活躍は建設業の未来を担う若者達が夢を持ち続けることができるような、そんな業界にしていくことと、どこかで通じているのではないのでしょうか。今後の連盟の益々のご活躍を期待しております。



LRT

次世代型路面電車について考える

～LRT化に向けた広島電鉄の取り組みから～



LRT (Light Rail Transit) 次世代型路面電車システムは、都市の交通渋滞緩和や環境問題の解消を図るため、欧米を中心に導入が進められている交通システムです。

LRT化に向けた取り組みを進める広島電鉄株式会社電車カンパニーを、広報委員会のメンバーが訪問しました。

市民の足として親しまれて100年

日本最大の路面電車路線網を持つ広島電鉄は、大正元年（1912年）の開業以来、広島市民の足として親しまれてきました。

総延長は35.1km（鉄道16.1km、軌道19.0km）で、1日当たりの乗客は約14万9000人（平成23年度）にのぼっています。路面電車は電停間の距離が短いことや、乗り降りや乗り換えが平面ですむことから、高齢者や障害者にも利用しやすい交通機関です。

とはいえ昭和40年からモータリゼーションが進むと、他の都市では次々に路面電車が廃止され、地下鉄やバスなどに振り替えられていきました。広島でも地下鉄への移行計画がありました。市民の足として定着した路面電車を守るため、合理化策の推進や行政の支援、走行環境の改善等を行いました。

なお、この頃、車両の購入費を抑えるために、廃線になった路面電車の車両を次々と購入

しています。かつて神戸市、北九州市、大阪市、京都市、福岡市を走った車両が今でも現役に活躍していることから、「動く交通博物館」とも呼ばれています。

LRT化に向けた取り組み

■車両の近代化

同社ではLRT化に向け連接車両を導入し輸送力の増強を図っています。単車（12～13m）の乗客定員は69～94名ですが、連接車両（25～30m）では130～180名の乗客を一度に輸送することができます。

また高齢者や障害者にも利用しやすい超低床車両（ノンステップ車両）を積極的に採用して

います。超低床車両は、路面から床までの高さが33cmと低くなっていて、車いすでも楽に乗り降りできます。国内のメーカーと国産初の完全超低床車両「グリーンムーバーマックス」を共同開発しています。

■交通結節点の整備

「歩かせない、濡らさない、待たさない」をコンセプトに、スムーズな乗り継ぎや乗り換えができるよう施設の整備を行ってきました。

例えば、横川駅電停を、広島駅、西広島駅に次ぐ都心部への第三の玄関口とするため、国土交通省や広島市と協力し、平成15年に250m離れたJR横川駅と路面電車の電停横川駅を、駅前広場内に移設して路面電車が乗り入れられるようにしました。歩行動線が約50mに短縮された結果、利便性が向上し街の活性化につながりました。

また、幹線鉄道等活性化事業費補助を活用して、廿日市市役所前駅のホームとバス停を一体化し、乗り継ぎ利便性の向上と施設のバリアフリー化を図りました。その他にもスロープなどを整備する電停のバリアフリー化も順次行っています。

■環境への配慮

レールの両側に樹脂を充填する弾性樹脂軌道が一部に採用されています。既存の方式より寿命が長いことや、舗装を痛めることなくレール交換できること、建設費と保全費を合わせたライフサイクルコストが優位になるといった利点があります。

また、ヒートアイランド対策に有効な芝生を貼った軌道を採用しています。弾性樹脂軌道も芝生軌道も、どちらも騒音を低減する効果があることが確認されています。

■サービス向上への取り組み

市内の主要交差点で電車優先信号システムを導入して、スムーズな運行を図っているほか、一部の電停で新口ケイションシステムを設置して、到着時間や電車の種類、英語表記が表示できるようにしています。

また全線で、JR西日本のICカードも利用できるICカード乗車券システム「PASPY（パスピー）」が導入されています。

今後は、JR広島駅への乗り入れなどを検討して、電停の改良による電車の遅れの解消や、路線の見直しによる広島駅電停・稲荷町電停間のスピードアップを図る予定です。

省エネ、渋滞緩和、バリアフリーなどの観点から、路面電車が見直されていますが、同社では「懐かしい」から「新しい」へをキーワードに、チンドン電車からLRTへの進化をめざしています。



京都市電が廃止となったのを受け、京都市交通局から購入した車両は1957年製



平成25年2月15日から営業運行を開始したワンマン仕様の完全超低床車両



国産初の完全超低床車両「グリーンムーバーマックス」



広島県観光キャンペーンのため、開業時の100形電車を再現したレトロ車両



ヒートアイランド対策のほか景観も向上する芝生軌道



8月6日の原爆投下により大きな被害を受けたものの現存も現役の千田町変電所。廿日市変電所からの送電で原爆投下直後の8月9日には電車の運行を再開、同19日には千田町変電所も復旧している。

広島電鉄株式会社のホームページ <http://www.hiroden.co.jp/>



「被爆電車」として全国的に有名な広島生え抜きの車両

「動く交通博物館」を 変える技術力

現在、同社が所有する車両は132両（連接車62両、単車70両）、約60名のスタッフが車両の保守点検に当たっています。日常の点検業務のほか、4年に1度、モーター等分解整備する定期検査を行っています。

車両の中には戦前から昭和30年～40年頃までに製造された古い車両が約40両含まれています。同社では、全ての車両について直営でメンテナンスを行っており、古い部品についても、確実な点検整備を実施しています。そして、保守部門に人材を採用して教育することで、技術の継承にも取り組んでいます。

コンクリートのおはなし

このコーナーでは、建設工事にまつわるさまざまなトリア(雑学的知識)をわかりやすくご紹介いたします。今回はコンクリートの基礎知識やおもしろ雑学について、コンクリート診断士がレクチャーします。

【コンクリート診断士】株式会社 明豊建設 鈴川 一行

コンクリートとは

「コンクリートって何?」
あまりにも身近すぎて、改めて聞かれると困るかも知れませんね。皆さん、こう答えると思います。「セメントと砂と砂利が固まったもの」。

正解ですが、不正確。私なら「好きな形や性質にできる石」と答えます。

「コンクリートの材料は「セメント」「砂」「砂利」そして重要なのは「水」です。「砂」や「砂利」は石が小さくならなもので、好きな形にするために小さくした「石」です。「セメント」は「石」を高温度で焼いた灰です。石を焼いて石の中の水分を飛ばし、「水」を入れてやることで「石」に戻ります。戻すときに好きな形の枠に入れるとその形になりますし、水の量を変えれば硬さが変わります。「石」を焼いて「水」を抜き、好きな形になるように「水」を入れて「石」にもとすから、「コンクリート」になるのです。

石という昔から永遠不変の象徴という捉え方がされてきました。ピロミッドやコロッセオなどの歴史的建造物は、2000年以上経ってもその耐久性を維持しています。中世に作られた石作り建造物も数百年経っても現役で人間の生活を支えています。こんな材料は他にありません。

しかし、石材はとにかく扱いにくいという欠点があります。運ぶのも積み上げるのも大変だし、好きな形に加工するのも大変です。その欠点を解決してくれるのが「コンクリート」なのです。

木材や粘土(レンガ)にはない耐久性を持ち、しかも同等の手軽さで巨大建造物を構築し、数世紀にわたってインフラを支える建材、それが「コンクリート」なのです。

コンクリートの歴史

「コンクリートって、比較的新しいものというイメージがありませんか?近代化の象徴みたいな雰囲気があり、特に木造建築文化の日本ではそう捉えがちです。

しかし、その起源はなんと6000年前!新石器時代に遡ることが出来ます。イスラエル、カリヤラ地方にあるインファツという場所で住居の壁や床に使われていた

した。

他には5000年前に中国西安付近の大地湾の住居跡からも発掘されていますし、エジプトのピロミッド、古代ローマのコロッセオ、パルテノン神殿も実は「コンクリート」なのです。

しかも、「コンクリートの長期耐久性・流動性向上に効果がある」として近年の超高層ビル建築などに使用されているポソロン反応物質*も、ローマ時代に「ポツォーリの土」として使われていたのです。

他にも、馬の毛を入れるとび割れしにくい、血を混ぜると凍結に強くなるなど、現代のファイバー入りコンクリートやAE剤(コンクリート内の空気を制御する薬品)の原型とも言われる技術が既に使われていたのですから驚きです。



旧長浜駅舎(写真/びわこビジタースビューロー)

では、「コンクリートって何種類くらいあるか?存知ですか?」
「JIS(日本工業規格)に規定されている「普通コンクリート」だけでも、その強さや用途によって84種類。それがさまざまにセメントの種類(こと)にあり、季節による配合の補正を加えると一般的なJIS工場でも1000種類以上の専用配合が存在することになります。

さらに「軽量コンクリート」「舗装コンクリート」「高強度コンクリート」など、特殊なものを含めると数え切れないくらい数になります。

工事現場ではそんな膨大な種類の中から構造物の種類、建造場所、工期、施工方法、作業スペース、季節、天候などの条件から最適な配合を選択するため、実はかなり専門知識が必要な材料だったりするのです。

良いコンクリートの作り方

「コンクリートは固まって初めてその性能が保証されますが、固まったコンクリートの硬さを検証するためには破壊しなくてはなりません。検証のために壊すのでは本末転倒です。だから固まる前の「生コン」を検査して、硬化した後の品質が保障できるかの妥当性を確認する必要があります。その検査と配合の理論の部を紹介します。

★圧縮強度試験

「コンクリートがどのくらい重さに耐えられるか」を示す要素です。「コンクリートの強度は中に入る砂利の強さ」が、固まったコンクリートの硬さを検証するためには破壊しなくてはなりません。検証のために壊すのでは本末転倒です。だから固まる前の「生コン」を検査して、硬化した後の品質が保障できるかの妥当性を確認する必要があります。その検査と配合の理論の部を紹介します。

緩衝材となる空気の泡がなければほろほろにひび割れてしまいます。また、冬場にはコンクリート内部の水が凍結して膨張します。その水の圧力の逃げ道を作っておかないと「コンクリートは内部から崩壊します」。

そんなわけで空気量は4.5%に制御するのが好ましいです。砂や砂利の中に空気は入りませんので、空気量は主に「セメント量」に依存します。

セメントや砂・砂利の量を徹底的に検証して作っても、空気量が4.5%にならない場合に登場するのが「AE剤」という薬品です。これはいわゆる石鹼水で、練り混ぜるたびに25~300mmの非常に小さな気泡を作り出すことで、ときに25~300mmの非常に小さな気泡を作り出すことができます。この「AE剤」をたくさん入れると空気量も増えて、生コンは滑らかになりますが、新たにコンクリートの制御が必要になってきます。しかも、「コンクリートはどのような物質が多くなると硬化不良を起こしやすいか」が、ほかに気温が高いと空気が抜けやすくなること、さらにさまざまな問題が付きまといま。

設計と通りの強度とコンクリートを維持しつつ、空気量を4.5%に制御する。季節による配合量も変える...コンクリート技術者へ、結構大変なのです。

コンクリートは面白い

知れば知るほどにこの「コンクリート」って奴は面白い代物です。ひたすら紙に向かい「配合計算を繰り返す」、その配合に基づいて「コンクリートを練り上げて検証する」。理系・工学系人間にしてみればフックするような作業を繰り返して作られているのです。自分で計算した成果やそれを元に作られたものが100年・1000年と残っていくことでもやがりのある仕事なのです。

今も「コンクリート」はさらなる進歩を続けています。鉄鋼所や火力発電所から出る廃棄物を使った長寿命「コンクリート」の開発や資源の再利用化による環境配慮型「コンクリート」も実用化されています。

また、近年話題の「コンクリート」構造物の老朽化問題や現行法律と現場施工の矛盾点についても機会があれば触れていきたいと思っています。この記事を読まれた方に「コンクリートって奥深い」「配合設計って面白そうだね」と興味を持っていただけたら幸いです。

圧縮強度試験

1 テストピース 10×20cm
2 毎秒 500±300kgの力で ゆっくり圧縮する
3 破壊された時の荷重を テストピースの面積で割る 圧縮強度値

一般的な建築配合なら 10×20cmの柱で 20~30tの圧力に 耐えなければならない。

スランプ試験

1 コンクリートを入れる
2 底に穴のあいたバケツ(スランプコーン)をひき抜く
3 何cm広がったか

良い崩れ方
なめらかに均一に

悪い崩れ方(一例)
偏り 一部が崩れる

崩れ方が悪いと...
○ポンプで送れない
○きれいに充てんできない
○硬化不良をおこす

空気量試験

1 空気圧を最大
2 圧縮されて空間が広がる(空気は縮む)
3 広かった空間分の圧力が下がる 空気量で計算する

これも影響しますが、基本的にセメントと水の割合「水/セメント比」で決まります。セメントが多ければその分強くなるという一番重要に見える一番単純な理論です。

検査の方法も簡単で、現場で使う生コンの一部を採取して、硬化させたものを破壊してその時の荷重から硬化後の建造物の強度を推定します。極論ですが、現在の日本で製造されているセメントは非常に高品質ですから、所定の水/セメント比を守っていれば強度が設計を下回ることはほぼありませぬ。

★スランプ試験

実はこれが一番難しく、そして重要な「生コン」がどれだけ使いやすいか「を示す要素です。検査の方法自体はとも簡単で、生コンをバケツに入れてそれを板の上にひっくり返して置き、バケツを上に向かっそのと取り外して検査します。そうすると生コンは重力に引かれて横に広がるようにして崩れていきますから、その時の崩れ方から判断するわけです。

柔らかくスムーズに崩れていけば建築物の壁や梁などに充填されやすくなりますし、「コンクリート」ポンプ車で高い位置まで運ぶこともできます。いかに使いやすい生コンにするかで施工の良し悪し、ひいては「コンクリートの最終的な品質」全てに影響してきます。

これを決める大きな要因が「単位水量」すなわち水の量です。つまり使いやすいとするためには砂や砂利を除いた糊の部分の「単位ペースト量」を大きくしてやればいいのですが、単位ペースト量を増やせば高価なセメントの量が増えて生コンのコストが上がります。

しかも、セメントと水でできたペースト部分というのは硬化や乾燥するにつれて必ず収縮します。そうすると「コンクリート」にひび割れが生じます。大きな構造物でペースト量が多いコンクリートの場合、水との反応によって内部に数百の熱が蓄積するともあるのではおぼろげです。このひび割れは「コンクリート」内部の鉄筋を錆びさせたり、強度・耐久性を低下させる主要原因になります。

そこで「砂」と「砂利」の比率でスランプを制御します。砂が多ければ流動性がよくなりますし、砂利が多ければ収縮の影響を受けにくくなります。でも、砂が多すぎると表面積が増えるわけですからスムーズに流れるために必要な水/ペースト量が必要になってしまし、砂利が多すぎると「コンクリート」流れなくなります。

さて、この矛盾だけをどう解決するか。「コンクリートの技術屋はこの問題を解決するために仕事をしていると言っているように、最低限のペースト量で最大の流動性を確保するために砂と砂利の比率を変えるのですが、砂や砂利は自然物ですから日々その粒の形や大きさが変動します。それを毎日チェックして、しかるべき比率に補正するのも重要な仕事なのです。

★空気量試験

これも重要な「コンクリートの長期耐久性」を示す要素です。この検査方法はボイルの法則を原理にしているのですが、密閉された容器の中に「コンクリート」を詰め込んでおいて、容器に付属した空気室の圧力を上げます。その圧力を容器内に開放すると、「コンクリート」中の空気が圧縮されて空間が広がるので空気室の圧力が下がります。そこから「コンクリート」中の空気量を計算します。「コンクリート」内部に空気がたくさん入っている状態はスポンジと同じですから強度も低下しますし、有害物質が入り込みやすいので風化や劣化が早くなって耐久性が低下します。

では、0%が良いのかといえはNOです。セメントには硬化や乾燥によって収縮するといった性質がありますので、

彦根市 スリルいっぱいの高所アトラクションを体験! ひこねスカイアドベンチャー

日常では味わうことのできないスリル満点の3つの高所アトラクションが体験できる施設「ひこねスカイアドベンチャー」。
大人から子どもまで楽しんで、爽快感や達成感が満喫できる話題のスポットを、広報委員会のメンバーが訪ねました。



高さ8m!! 挑戦と冒険のアスレチック Adventure-G (アドベンチャーG)

ハーネス(命綱)をつけて体験するアスレチックコース。地上からの高さ8メートルで、丸太やロープを渡ったり、ゆらゆら揺れるロープでつり下げられた足場を移動したり、風を切って疾走するフィニッシュのミニスライダーまで、18アイテムあるアスレチックはどれもスリル満点。
スタートからゴールまで約240メートルをクリアするのに、ぶつう30～40分かかるとは思いますが、中にはスイスイと10分ほどでゴールする強者もいるとか。
安全に楽しめるようスタート前にスタッフがレクチャーを行い、どうしても先に進めなかった場合は、レスキュー資格を持つスタッフがサポートしてくれるので安心です。
家族や仲間と助け合いながらゴールした時には、きっと最高の達成感を味わえるはずです。

時間 / 9:00～17:00(受付は16:00まで)
料金 / おとな 3,500円 子ども 2,500円 ※受付から2時間遊べます。
備考 / 雨でもできますが、強風・豪雨・雷の場合はクローズすることもあります。

- | | |
|-------------|---------------|
| 1 倒木のぼり | 10 平行ライン |
| 2 クライミングパネル | 11 Uネット |
| 3 Zブリッジ | 12 ユーループ |
| 4 日本板橋 | 13 キャットウォーク |
| 5 スインギングログ | 14 カーゴネット |
| 6 マルチバイン | 15 ダブルクロス |
| 7 アウーグラス | 16 ジャパニーズブリッジ |
| 8 ステップアウト | 17 エアポート |
| 9 スカイサーフィン | 18 ジップライン |



チャレンジしてきました!

当日は雨の中、広報委員会のメンバーがアドベンチャーGにチャレンジ、3名が見事ゴールしました。以下はみなさんの感想です。

「下から見てのと、実際に高いところの上ってやってみるのは大違い! 足がすくんで、前になかなか踏み出せませんでした」
「雨のため丸太などが滑りやすい最悪のコンディションの中、ゴールできた喜びはひとしおです」
「何度かあきらめようかと思いましたが、ゴールできた時の達成感は最高でした。またチャレンジしてみたいくなりました」



全長約200mの 空中スライダー!! Sky-G (スカイG)

空中に張られたワイヤーを約200メートル滑り降りるスカイG。飛び出す瞬間はちょっと怖いけれど、いったん空に飛び出すと、彦根の街並みを遠くに見渡しながら、鳥のように大空を飛ぶ爽快感を楽しむことができます。

時間 / 9:00～17:00(受付は16:00まで)
料金 / おとな・子ども 1,000円 / 3回
備考 / 雨でもできますが、強風・豪雨・雷の場合はクローズすることもあります。

日本発登場!! スリル&爽快感の空中ブランコ High-G (ハイG)

本物の空中ブランコ体験ができるのは日本ではここだけということもあって、県外から訪れるファンやリピーターも多いとか。練習用ブランコでコツをつかんだ後は、高さ7メートルのスタートボードからバーを握って空中にダイブ。バーに足をかけてぶら下がることができたら、反対側のブランコに乗ったスタッフの手にキャッチしてもらおう「Knee Hang Catch」という技に挑戦。見事成功したチャレンジャーには認定書が発行されます。

時間 / 土日祝および長期休暇シーズンのみの営業
セッション1 9:30～11:30
セッション2 12:00～14:00
セッション3 14:30～16:30
料金 / 1セッション(2時間) おとな 3,500円 子ども 2,500円
備考 / 雨天・強風・雷の場合はクローズ

所在地
〒522-0007 滋賀県彦根市古沢町278-9
アンビエントガーデン彦根
●TEL.0749-26-1793
●営業時間:9:00～16:00(閉園17:00)
●定休日 不定休
(貸切やメンテナンスによる休業日があります)
●http://hikonesky.com/index.html
●アクセス
JR東海道本線・彦根駅から徒歩15分、
名神彦根インターから車で5分

割引特典
夢けんせつ2013年春号を持参の方は中学生以上:
通常4500円→4100円 **400円OFF**
小学生以下:
通常3500円→3200円 **300円OFF**
※アドベンチャーG+スカイGのプランのみ
※グループ利用可
※今シーズン中有効

研修 チームビルディング
ひこねスカイアドベンチャーでは、学生・スポーツチーム・企業などのチームビルディング(同じゴールを目指し、メンバーが個々の能力を最大限に発揮しつづー丸となって進んでいくための効果的な組織づくり)や、各種研修向けプログラムも実施しています。高所アトラクション体験のほか、グループに合わせたプログラムや目標設定にも対応しています。

3つのGを

体感せよ!!



土のスペシャリストとして 高い技術で信頼に応える

双葉建設株式会社

甲賀市甲南町池田 代表取締役 山本 善浩



社屋

土にこだわって事業を展開

「県の技術者として県内の市町村で土地改良事業に携わり、防水（グラウト）工事や地質調査の技術指導を行っていた父が、この会社を設立したのは昭和35年のこと。地質調査会社としては県内で一番古いのでは」と語る山本善浩社長。

昭和42年には土質試験室を開設して、地質調査、土質試験、さく井工事、防水工事、法面処理工事、地すべり防止工事、ボーリング工事、アンカー工事など、土木中心に実績を重ねてきました。

「父が早くに亡くなったため、大学卒業後すぐに会社に入って、営業から現場まで、多くの人に助けられながらすべてこなしてきた」と言う山本社長。

自らも大学で土質力学を学び、土にこだわってやってきたのが同社の強みになり、地質調査のほか測量・建設コンサルタント業務などを担う調査部と工事が両輪となって、調査測量から設計、施工まで、地盤や土質を理解

で斜面の安定を向上させるといったものです。樹木の伐採や切土の作業が不要で、残土処理も伴わないため、環境に優しく、「コストも削減できる工法です。木を切ったり、景観を変えたりできない場所にも施工できることから、同社では竹生島の法面保護工事をこの工法で施工しています。

「ジオファイバー工法」は、砂質土と連続繊維（ポリエスアル）をショット水とともに噴射して、法面に厚く強靱な土構造物を築く補強土工法です。モルタル・コンクリート吹付工などの従来工法と同等の法面保護効果が期待できるうえ、緑化や樹林化にも適しています。

高い技術力を 次の世代に受け継ぐために

新しい技術や工法の導入にも熱心に取り組んできた同社では、今後、熟練した技術者のノウハウをどうやって次の世代に伝えていくかが課題になっています。同社では、月一回技術研修会を開いて、現場での課題や工夫を発表し、意見を出し合っ

たく井事でも豊富な実績を有している



砂質土と連続繊維を法面に吹き付ける「ジオファイバー工法」



急勾配でも作業できるロッククライミングマシン



現場での土質試験(SH試験)



「技術者を育てることに熱心だった父の志を受け継ぎたい」と言う山本社長。さまざま現場の条件に合わせて工夫していくよう、マニュアル化できない部分を継承していくことが、高い技術力の保持につながります。

平成19年にはエコアクシオン21を認証取得したほか、管理道路の

したうえで施工できる高い技術力に信頼が寄せられています。

環境に優しい 法面工事への取り組み

同社が現在力を入れているのが、環境配慮循環型の法面工事です。その一つ「BIWAソイル緑化工法」は、滋賀県内で発生する間伐材や伐根材をチップ化してリサイクルした生育基盤材（BIWAソイル）に、肥料や種子を混ぜて法面に吹き付けて緑化を図る工法で、急勾配でも施工できるのが特徴です。また、現場で発生する伐採木をチップ化して有効利用することもできます。

さらに、この生チップ材にセメントや強化材を加えて吹き付ける「法面防草マルチング工法」は、植物の育成を抑える道路などの維持管理にも活用できます。

また、「ノンフレーム工法」は自然環境を損なうことなく、斜面の表層すべりを防止する工法で、3〜5mのロックボルトを斜面に多数打設して、地山とロックボルトの相互作用

除草や清掃を行う美知メセナ、甲賀市の環境保護活動など社会貢献活動にも積極的に取り組んでいます。

今後土を活かすことを主眼に置きながら、社会のニーズと顧客の信頼に応えられる企業であり続けたいと言う山本社長。災害に強く環境に優しいインフラ整備を考えた時、同社の技術力への期待がさらに高まってくるのではないのでしょうか。



管理道路の清掃を行う美知メセナ(上)
定期的に技術研修会を開いて技術の継承に取り組んでいる(左)



堀切港で実施した湖上ボーリング調査



法面防草マルチング工法



BIWAソイル緑化工法

積極的に取り組んでいる環境配慮循環型工法



地盤や土質に適合させるグラウンドアンカー工事



施工の基礎となる土質を把握するための土質試験業務(上段左)





仕事の達人、遊びの達人 私のオフタイム

野球の指導を通して、子どもたちの健やかな成長を願う

株式会社吉野組 常務取締役 原田 次雄



時代はキャッチャーでキャプテンを務めていました。自分がやってきたこと、やり残したことを子どもたちに伝えたいという思いで指導に当たっています。

毎週日曜日は朝早くからグラウンドに出て、夕暮れまで指導に当たり、県外への宿泊遠征も年に何度か実施しています。大会がある時は休みをいただいたり、会長、社長はじめ職場の同僚からも理解していただいたお陰で、ここまで続けてくることができました。

我が子を育てるような気持ちで、愛情を持って厳しく指導しています。自宅の裏にネットを張って、平日の夜に希望する子どもたちのトレーニングも行っています。

卒団後、野球の名門校に進学する子どもも多く、甲子園で活躍した子どもたくさんいます。子どもたちの成長ぶりや活躍を見るのがなにより励みになります。



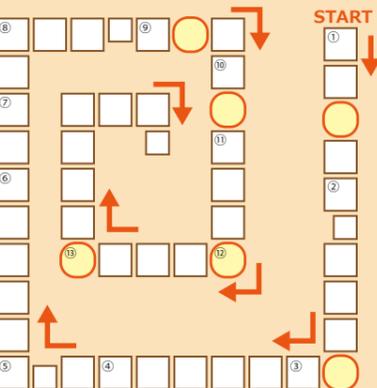
中学の先輩から誘われて、少年野球。滋賀野洲ボーイズのコーチを始めてから、この7月で20年になります。公益財団法人日本少年野球連盟に所属するチームで、中学生を対象に土、日、祝日に指導を行っています。

中学の先輩から誘われて、少年野球。滋賀野洲ボーイズのコーチを始めてから、この7月で20年になります。公益財団法人日本少年野球連盟に所属するチームで、中学生を対象に土、日、祝日に指導を行っています。

やる気を見せるかということとです。仕事と同じで、しっかりやる気アピールできるように頑張っています。昔に比べると総合的に体力がなくなっているのが気になりますが、今の子は塾にも行かなければいけないといった事情があるようです。

子どもたちにとって、スポーツは体だけでなく心を鍛えてくれるものです。野球を通じて協調性が養われて、入団から1年、2年経つとどの子も受け答えがしっかりできるようになります。

夢は全国制覇。全国の少年野球チームの頂点に立つことを目標に、これからの子どもたちの力を引き出し、個性を伸ばす指導を心がけていきたいと考えています。



1. 香川県の県庁所在地
2. 店舗が多く建ち並ぶ通り
3. 今号の街かどウォッチングで紹介した特別養護老人ホームの名称は？
4. 京都・嵯峨観光で有名な○○○列車
5. セメント・砂・砂利に水を混ぜて固めたもの
6. 山の上り下りの境目
7. 生物の染色体の組
8. ひともフォアボールを出さないこと
9. 青梅を塩漬けにした保存食
10. 英語で絹・生糸のこと
11. 式典などで割ると中から紙吹雪などが出る玉
12. 芝居の幕間に食べるために考案された弁当
13. 合図に鐘を鳴らして走る路面電車



1番から13番まで、しりとりを続けてください。○の文字を組み合わせてください。

ヒント 特集「話題の焦点」

公益社団法人日本建築士会連合会主催の「第3回建築甲子園」で、第1回優勝、第2回準優勝に続いて準優勝に輝いた安曇川高校。建築デザイン系列3年の高尾卓矢さん、伊庭卓弥さん、野崎裕貴さんに、協同制作した準優勝作品「外来魚～新しい地域の暮らし～」についてインタビューしました。



地域文化の継承、資源の利用や循環を考えた作品で「第3回建築甲子園」準優勝を獲得

第3回のテーマは「地域の暮らし」。3人はまず、地域の文化や伝統、自然について各自が調べることから始めました。調べたことを持ち寄って方向性を決め、プランづくり、模型づくり、図面の製作まで、3人の協働によって完成した作品のコンセプトは「新しい暮らしのローテーション」。

漁業を生業とする4家族が暮らす共同住宅と、学習施設や銭湯などのコミュニティスペースからなる建物で、伝統的な琵琶湖の漁業や食文化をおよびやす外来魚を駆除するだけでなく、外来魚を活用した新しい食文化の創造・発信に取り組む、食育の場としての役割も担っています。

京都の舟屋を参考に各住居から直接琵琶湖に船を出せるようにしたほか、食品の貯蔵や空調に利用する雪室を取り入れて、雪の多い滋賀県北西部ならではの自然エネルギーの利用も工夫されています。また建物に続く「魚のゆりかご水田」では、湖魚の養殖を行って湖に帰すことで、持続可能な漁業、琵琶湖に昔からあった「つくり育てる漁業」の継承を目指します。

「地域の暮らしについて考えることができ、改めて外来魚の問題が深刻であることを感じました。自然エネルギーの利用にも改めて興味を持ちました」と野崎さん。

「自分たちが生まれ育った地域について考えるきっかけになりました。みんなのアイデアをまとめるのは難しかったですが、このような大きな賞をいただけてほんとうに良かったと思います」と伊庭さん。

「地域の暮らしへの理解が深まりました。また、ブラックバスは捨てるものと思っていたけど、ちゃんと調理すれば食べられる、利用できることがわかりました」と高尾さん。

指導に当たった太田明博先生は、「グループで一つのものを作り上げるのは難しかったと思う。いっしょに調べたり、考えたり、意見をまとめたり、コツコツと積み重ねたことが良い結果を出せて、貴重な経験になったのではないかと、3人の成長ぶりを評価します。

建築甲子園以外にも、高校生対象の建築設計コンペで毎年優秀な成績を収めてきた同校。これからも建築を学ぶ若者たちに夢を与えられるような、優れた作品が発表されることを期待したいものです。



準優勝に輝いた3人、左から高尾卓矢さん、伊庭卓弥さん、野崎裕貴さん



伊庭さんが製作した模型

ひこね丼(彦根市)



ひこね丼



新名物ひこね丼をPRするひこねちゃん

平成23年に彦根市市制施行75周年を記念して、彦根ならではの食材の魅力を手軽に楽しんでもらえる彦根の新名物を創出するため、レシピを公募して誕生した「ひこね丼」。

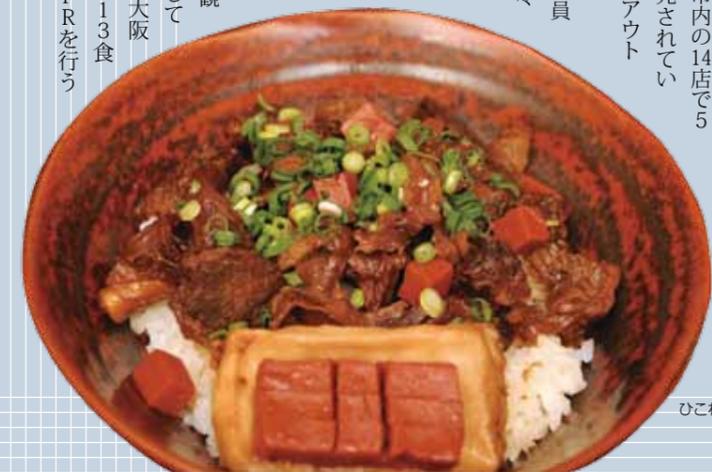
関ヶ原の合戦で活躍した彦根藩の初代藩主・井伊直政公の旗印「井(いげた)」にワンポイントを加えると「丼」になることや、近江米のおいしさを生かしたメニューということで「丼」を新名物にすることになりました。

集まった204のレシピの中から、近江牛のすじ肉と、井伊家の甲冑「井伊の赤備え」をイメージした赤こんにやくを組み合わせたもののほか、川エビやびわますなど湖魚を使ったレシピなど、10種が「ひこね丼」として選定されました。

例えば近江牛の味噌ダレと赤こんにやくのカツの食感がめずらしい「ひこね赤鬼丼」や、ところどころの近江牛すじと歯ごたえのある赤こんにやくとの愛称が抜群の「ひこね

丼」など、リーズナブルな価格で楽しめる、元の食材を使ったご当地グルメが誕生しました。ほか、現在、彦根市内の14店で5種のひこね丼が販売されています(一部はテイクアウトのみ)。

ひこね丼祭実行委員会では、地元の人々にも親んでもらえるようにと、昨年11月にひこね丼誕生祭を開催、今年の1月末までひこねちゃんオリジナルグッズがもらえるキャンペーンを実施しました。今後は観光客にも広くPRしていく予定です、5月に大阪で開催される「2013食博覧会」会場でもPRを行う予定です。



ひこねの赤どん

販売店・公認レシピは以下の「ひこね丼ホームページ」で紹介されています。
<http://www.city.hikone.shiga.jp/hikonedon/index.html>
ひこね丼祭実行委員会(彦根市商工課内)
☎0749-30-6119

取材ほれ話



昨年の春号に引き続き、広報委員会のメンバーが県外視察・取材を行いました。今回は、全国から見学者が絶えない高松丸亀町商店街と、公共交通システム(Light Rail Answer)化に取り組み広島電鉄株式会社を訪ねました。

高松では古川康造高松丸亀町商店街振興組理事長から、全国で初めて地元主導型のまちなか再開発を成功に導いた経緯や先駆的な手法についてレクチャーを受けました。平日の昼間でもにぎわいの絶えない商店街を目の当たりにして、「1000年先の子孫のために本気の覚悟で取り組んだ」という古川理事長の言葉の重みを噛み締めることができました。

また、広島電鉄電車カンパニーでは、電車輸送企画グループの平町隆典マネジャーから、長い歴史を持つ広島路面電車やLRT化に向けた取り組みについて説明していただきました。保守点検を徹底して実施してこられた



朝ご飯代わりにいただいた「釜玉うどん」。一行は4軒の有名店をはしごしました。



お陰で、懐かしい京都や神戸、大阪の市電が現役として活躍していることが印象に残りました。

今回も滋賀のまちづくりについて考えるうえで、手応えのある視察ができたのではないのでしょうか。それはさておき、取材というと美味しいご飯が付きものの広報委員会。今回の視察旅行で名物広島焼きとさぬきうどんを堪能したことは言うまでもありません。

広島電鉄の取材にご尽力いただいた、株式会社広交本社の前 康弘社長と、中国精糖株式会社の奥本松樹社長に改めて感謝申し上げます。

VOICE 読者の声

「夢インタビュー」「おじゃまします」に同じ女性として元気をもらえました。(飯島美津子さん)

ビジネス最前線ではへちま杖やみのむしふとんなど、ユニークな商品開発に興味を持ちました。(原 正雄さん)

エネルギーが課題となっている今、次世代エネルギーに焦点を当てた特集が良かったと思います。(東郷重明さん)

大阪から大津に転居して6年。今年びわ湖検定2級に初めて挑戦して合格、ますます滋賀県が好きになってきました。(鍋島道雄さん)

敦賀市に行く時に近江建築探訪で紹介された「柳ヶ瀬トンネル」をよく利用しています。使用されているトンネルの中で2番目に古いとは初めて知りました。(丹治徳彦さん)

After Word

春爛漫の季節になりましたね!みなさんお花見にはもう行かれましたか? ちなみに私は、日本のさくら名所100選に選ばれている滋賀県高島市マキノ町の「海洋大崎」で観賞するつもりです。遅咲きの桜はこれからなのでとても楽しみです。

さて、私が広報委員になってから企画・編集してきたこの広報誌は、これで6冊目となりました。日ごろ私たち広報委員は、建設業のイメージをどのような方法で伝えたらよりわかりやすいかということを常に念頭においていました。会議のとき「いい案がないか?」とメンバーで顔を見合わせ、「いい案が出ないようだから、さあ、一杯飲みに行こう。飲んでるうちにいい案が出るかもしれない!」なんていうことも何度かあり、和気あいあいとした会議が多かったです(笑)

私自身は広報委員になってこの春号の発行でちょうど3年になります。普段事務職をしている私にとって広報委員の活動はとても貴重な経験となりました。昨年の3月に東京勝島ポンプ所で、大断面かつ急勾線のトンネル工事現場を取材したことがありました。そこには海外各地から専門家や学者が見学に訪れた際に写された写真が展示してありました。それを見て私は、日本の建設技術力の高さをあらためて実感すると共に、日本の技術をととても誇りに思いました。

また、建設業に携わるまでは建設現場で働く方たちを「現場で働くパワフルな職人さん、たくましいお兄さん」といったイメージで見えていましたが、そんなたくましいお兄さんが、竣工式で涙を流しながら工事のことを熱く語るという普段とは違う一面に遭遇したことがあります。辛かったからではなく、自分達の手で造り上げたものに対する「よるごとと感動」からあふれ出る涙を見たとき、私自身本当に感動し、建設業に携わってよかったと思いました。

これからも私達はこの広報誌を通して幅広く建設業の魅力を伝えていく所存です。どうか今後も応援を宜しくお願いいたします。また、読者の方々からの貴重なご意見とご感想をお待ちしております。

応募要領

- 応募資格/どなたでも応募できます。
- 応募方法/住所、氏名、年齢、連絡先、滋賀県建設会館の愛称を明記の上、メール、郵便、FAX、または今号のアンケートはがきで下記宛へ応募ください。
- 応募締切/平成25年6月30日必着
- 発表/平成25年7月に当会ホームページで入選作を発表します。
- 採用/最優秀賞 30,000円(1名)
優秀賞 記念品(若干名)
- 提出および問い合わせ
〒520-0801
大津市におの浜1丁目1番18号
(一社) 滋賀県建設業協会
TEL 077-522-3232 FAX 077-522-7743
Email info@yumeken.or.jp

夢けんひろば

滋賀県建設会館の愛称を募集します!

建設関係諸団体が入居する滋賀県建設会館は、業界の交流の場として、また技能・技術の研修の場として活用されています。ここを訪れる多くの方々にとさらに親しみを持って利用していただけるよう、このほど、愛称(ニックネーム)を募集することとなりました。みなさまのご応募をお待ちしています。

前号の答え 「a」

パズル&クイズ当選者

- 鍋島 道雄 さん
- 森野 芳子 さん
- 清水 正博 さん
- 西村 忠員 さん
- 木下 俊晴 さん
- 木元 秀典 さん
- 北川 義象 さん
- 豊田 博 さん
- 澤 百合子 さん
- 杉江ミサ子 さん
- 文本 時男 さん

応募方法

- P&Q及びアンケート(返信用添付ハガキ)の両方にお答えいただいた方の中から抽選により粗品を進呈します。ふるってご応募ください。
- 別のハガキにてご応募の方も住所、勤務先(学校名)、氏名及びP&Qの答え、アンケート、メッセージ等を書いて送付してください。
- 締め切り
平成25年6月20日必着
- あて先
〒520-0801
大津市におの浜一丁目1-18
(一社)滋賀県建設業協会 広報委員

季刊夢けんせつ春号

◆
2013年(平成25年)4月10日
通巻第643号
発行 (一社)滋賀県建設業協会
〒520-0801 大津市におの浜一丁目1-18
TEL.077-522-3232(代)
FAX.077-522-7743
<http://www.yumeken.or.jp>
企画編集 広報委員会
協力・印刷 宮川印刷株式会社



一般社団法人 滋賀県建設業協会
www.yumeken.or.jp